

座間市 Landside Water Hazard Map

内水ハザードマップ

座間市では、1時間に降る雨が50mmになっても雨水があふれないように下水道等の整備を進めているところですが、近年、気象の変化による大雨が各地で降り、浸水被害が発生しています。被害はいつ発生するかわかりませんが、常日頃より水害への備えをすることにより被害を最小限に抑えることができます。

本マップに図示している浸水区域と浸水深は、現況の下水道、水路整備の状態、国土地理院から公表されている地盤高情報をもとに1時間に50mm、100mmの雨が降った際に予想される浸水状況をシミュレーションしたものです。

急激な大雨の発生や降雨時間などによっては、このマップで着色されていない区域においても浸水が起こる可能性があります。既に公表している『座間市防災対策総合ガイド』と併せて、降雨時の避難経路の検討など、水害への事前の備えとともに情報共有ツールとしてご利用ください。

座間市防災対策総合ガイドの防災マップ(洪水ハザードマップ)を見ましょう。

河川からの越水又は堤防決壊がない場合 → 内水ハザードマップを見ましょう。

河川からの越水又は堤防決壊がある場合 → 座間市防災対策総合ガイドの防災マップ(洪水ハザードマップ)を見ましょう。

内水ハザードマップに関する問い合わせ：上下水道局 下水道施設課 TEL:046-252-8629

1 ハザードマップの使い方

1 内水ハザードマップの見方

内水ハザードマップでは、道路施設、下水道施設の能力を上回る雨が降った時に、あふれた雨水がたまる場所と水深を予測しています。水深の目安は右の図に示すとおりです。

現在の住まいの周りで予測される浸水状況や避難場所までのルート選定にご利用下さい。

2 避難場所の確認

大雨や夜間は視界が悪いことを想定し、安全な避難ルートや最寄りの避難場所などを家族で確認しておきましょう。浸水が想定される区域を横断することは危険ですので迂回しましょう。坂道や窪地などは、道路上を水が流れて足を取られたり水がたまる可能性がありますので注意が必要です。

3 家族間での情報共有

防災メモに、家族の名前、電話番号、家族の避難場所などを記入し、家族の間で情報を共有しておきましょう。

わが家の防災メモ				
	名前	電話番号	住所	メモ
家族の連絡先				
家族の避難場所	避難場所			
	待ち合わせ場所			

2 大雨が引き起こす災害

1 浸水のメカニズム

内水ハザードマップ

河川には余裕
下水道の雨水排水能力を上回る降雨による浸水

道路施設、下水道施設の排水能力を上回るような雨が降った時や、河川の水位が高くなり下水道幹線から河川に排水できない時に発生する浸水のことを内水浸水といいます。

堤防の決壊、河川からあふれた水によるはん濫
下水道の雨水排水能力以下の降雨であるが、堤防の決壊や河川からあふれた水による浸水

下水道には余裕
下水道の雨水排水能力を上回る降雨による浸水

下水道の雨水排水能力を上回る降雨による浸水

河川からの越水や堤防決壊が発生すると、座間市防災対策総合ガイドの防災マップ(洪水ハザードマップ)の浸水区域に移行します。

- 河川からの越水又は堤防決壊がない場合 → 内水ハザードマップを見ましょう。
- 河川からの越水又は堤防決壊がある場合 → 座間市防災対策総合ガイドの防災マップ(洪水ハザードマップ)を見ましょう。

2 内水ハザードマップで予想している災害

大雨が降り、道路側溝にゴミなどが詰まり、うまく排水されず、道路に水がたまりやすくなります。

地形的要因などで道路が低くなっている所に雨水がたまりやすくなります。

換気口や採光窓など、思わぬところから水が入ることがあります。また、流れ落ちる水で階段は濡れやすくなります。

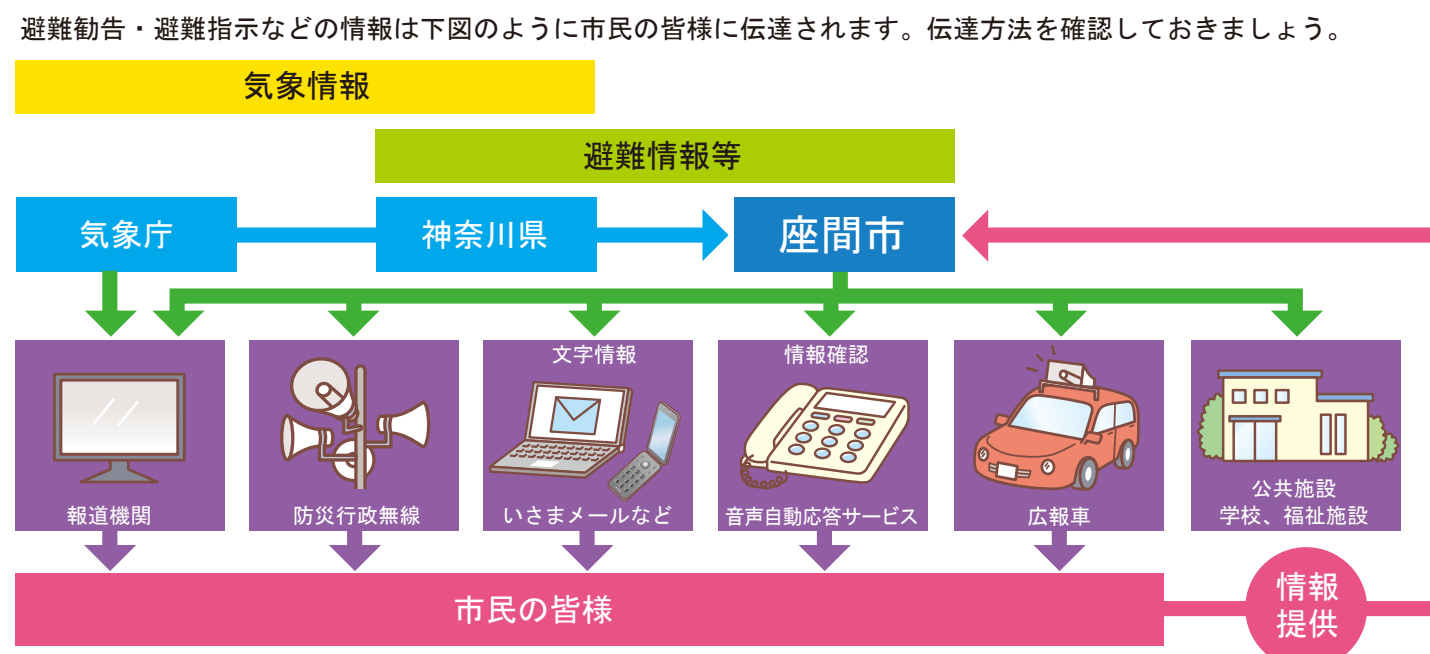
大雨が降り、川の水位が上がると排水路からうまく排水されず浸水します。

内水浸水時の人的被害の大半は、避難途中の側溝や水溜、マンホールへの落下によるものです。

ある程度浸水すると、外開きや内開きでも、ドアを開けることができなくなります。

国土交通省「内水ハザードマップ作成の手引き(案)」より引用

4 座間市の情報伝達経路



避難情報の種類

避難情報の種類	発令時の状況	とるべき行動
避難準備情報	人的被害の発生する危険性が高まった状況。	避難に時間がかかる高齢者などの災害時要援護者やその支援者は避難を始める。
避難勧告	人的被害の発生する危険性が明らかに高まった状況。	すべての住民は指定された避難所に避難を始める。
避難指示	人的被害の発生する危険性が非常に高まった状況。あるいはすでに人的被害が発生した状況。	避難中の住民は直ちに避難を完了する。避難していない住民は直ちに避難し、避難する余裕がなければ命を守る最優先の行動をとる。

座間市からの情報提供

防災行政無線
災害発生時などに、防災に関する緊急情報を、市内各所に設置しているスピーカーから、一斉に放送します。※防災行政無線は建物の外で聞いていただくものです。

音声自動応答サービス
防災行政無線で放送された内容がよく聞こえなかった場合や、放送内容をもう一度確認したい時などに、放送と同じ内容が自動音声で確認できます。(通話無料)
0120-673-679
フリーダイヤル

座間市緊急情報いさメール配信
市内で発生した災害や火災などの情報を、携帯電話やパソコンに「電子メール」で配信するサービスです。防災行政無線で放送された内容は必ず配信されます。安心して生活するために、ぜひ登録を!

登録方法
■携帯電話の場合
右のQRコードを読み込んでください。
■パソコンの場合
http://www.anshin-bousai.net/zama/

※迷惑メール防止対策をされている方は、受信できるドメインとして、「fashin-bousai.net」を許可してください。

情報提供先：危機管理課

5 日ごろからの心得

1 大雨に備えた準備

大雨に備えた準備をし、いつでも避難できるようにしておきましょう。

①浸水に備えましょう
②停電に備えましょう
③非常持出袋を用意しましょう

浸水の恐れがあるときは、家財道具など2階などの高い所へ移動させる。

停電に備えてローソクや懐中電灯の用意をしておきましょう。

非常持出袋を身近な所に置いて、いつでも避難できるようにしておく。

浸水が想定される箇所のお住まいの方は、自家用車の特選場所を検討しておきましょう。路上駐車は避難行動や災害対応活動の支障となります。

2 事前のできる対策

①道路上の雨水すそをキレイにしましょう
②避難する場所を確認しましょう
③避難する経路を歩いてみましょう
④雨水貯留・浸透施設の設置

道路上の集水溝が塞がると、内水浸水が発生するおそれがありますので、定期的に清掃しましょう。

自宅から避難所、学校や勤務先からの避難場所も全員で確認しましょう。

避難所までの経路(避難路)は、あらかじめ自分たちで複数決めておき、安全に通行できるように確認しておきましょう。

家の屋根に降った雨水を地中に浸透・貯留させることで、あふれる雨水や、下水道に流れる水量を減少させ、内水浸水を減らすことができます。

家庭のできる簡易水防方法

ご家庭にあるものを使っての水の浸入を防ぐ方法の例です。あくまでも水深の浅い初期の段階で行うものです。

①ごみ袋による簡易水防
40L程度のごみ袋を二重にして中に半分程度の水を入れ、ポリタンクに入れると強度が増します。

②ポリタンクとレジャーシート
ポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み連結して使用します。

③プランターとレジャーシート
土を入れたプランターをレジャーシートで巻き込み使用します。

④板など
出入口で長めの板などを使用します。

⑤吸水性ゲル水のう(使い捨てオムツなど)
軽量・コンパクトですが、水を吸うと膨張します。

6 災害に備えて準備するもの

日ごろから準備をおこない、いざという時に備えましょう。非常持出袋は両手が使えるためにも、リュックサックが便利です。家族の誰もがすぐに持ち出せるように、わかりやすい場所に保管しましょう。

避難時に必要なもの

①ロープ
安全に避難が出来るように用意しましょう。

②杖又は棒
浸水箇所での歩行通路確保に一人に一本用意しましょう。

③懐中電灯
一人に一台ずつ用意。予備の電池も用意しましょう。

④軍手、合羽、運動靴
長靴は水が入ると歩行の障害となります。

⑤ヘルメット
暴風雨の時の飛来物を防護しましょう。

避難所で必要なもの

①常備薬
傷薬、ばんそうこう、解熱剤、かぜ薬のほか、普段服用されている常備薬などを用意しましょう。

②着替え
防寒具、マスク、下着、スリッパ、ブラジャー等を用意しましょう。

③貴重品
現金、預貯金通帳、印鑑、健康保険証、公共電話用の10円玉も用意しましょう。

④ラジオ
小型で軽いAMとFMの両方聞けるものを用意。予備の電池も用意しましょう。

⑤洗面用具
⑥子供用品
⑦介護用品
⑧ビニール袋

避難時持ち出し品は最小限にしましょう!

7 避難時の心得

危険を感じたり避難指示があったらすぐに避難しましょう。

避難のポイント

①ガスの元栓を閉める
②電気のブレーカーを落とす
③水道の元栓を閉める
④徒歩で避難をする

⑤隣近所に声をかける
⑥足下に注意をする
⑦マンホールや側溝に注意
⑧2階以上へ避難をする

車での避難は、浸水すると動けなくなります。基本的には徒歩で避難しましょう。

外に出ることが危険と感じた場合は、自宅や近くの建物の2階以上に避難し、水が引くのを待ちましょう。

避難時には2人以上で行動する。隣近所と声をかけ、集団で避難しましょう。

くぼみや溝を確かめるため、長い棒などで足元の安全を確認しましょう。また、浸水によって側溝が見えなくなるので歩行に注意しましょう。

避難時に助けが必要な人への協力

周りには自力ですぐに避難できない人がいます。隣近所と声をかけ、助け合いの気持ちを大切にしましょう。

妊婦・子供
高齢者
体の不自由な方
目・耳の不自由な方
外国人